

## 手術で治る認知症

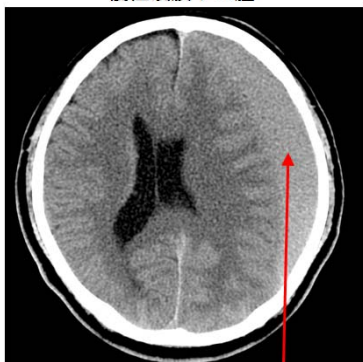
我が国では高齢化が進み、認知症の患者さんが増えています。誰でも「将来、認知症にはけしてなりたくない」と思っているでしょう。「認知症になったら家族に迷惑をかける」、「この病気には治す方法がない」などが大きな理由だと思います。認知症はさまざまな原因でおこりますが、たしかにほとんどの認知症は現代医学でも治すことはできません。しかし、認知症の中の一部は手術で治すことができます。手術で治る認知症は、簡単にいうと頭の中に余計なものがたまることによっておこります。

血液がたまることによっておこるのが「慢性硬膜下血腫」です。この病気では、軽く頭をぶつけてから1-2ヶ月後に認知症のような症状があらわれます。片側の手足の麻痺を伴うことが多く、通常の認知症に比べて進行が早いため、日に日に悪くなるのも特徴です。頭部CT検査ですぐに診断がつきます。「慢性硬膜下血腫」の症状は脳の外側に血液が溜まって脳を圧迫するためにおこるので、手術で頭蓋骨に穴を開けて、たまった血液を抜けばほとんどの方がすっかり元通りになります。

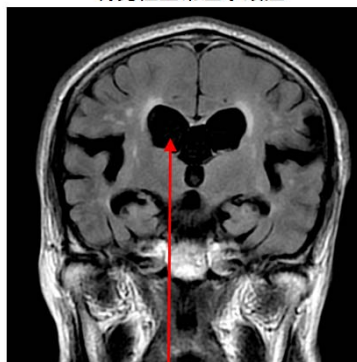
頭に脳脊髄液が過剰にたまるのが「特発性正常圧水頭症」です。脳脊髄液は常に頭の中を循環していますが、これの水はけが悪くなり、頭の中にどんどんたまってしまうのがこの病気です。高齢者に多いのですが原因はわかっていません。この病気も物忘れがひどくなり、ボーッとしていることが多くなります。歩幅が小さくヨチヨチ歩きになるのも特徴で、月単位で症状が悪くなります。通常の認知症の方のCT画像でも頭に脳脊髄液がたまっているように見えることがあるため、「特発性正常圧水頭症」と診断するにはいくつかの検査が必要です。治療は、頭の中にたまった脳脊髄液をシリコンの管を通して他の場所に流れるようにするシャント手術ですが、頭からお腹の中、腰椎からお腹と2タイプがあります。この手術で最も効果が見られるのは歩き方が良くなることですが、認知症も半数以上で改善が見られます。

進行が早い認知症、ヨチヨチ歩きの認知症は、脳神経外科や神経内科を受診することをお勧めします。「手術で治る認知症」かもしれません。

慢性硬膜下血腫

脳の外側にたまった血液  
(三日月の形)

特発性正常圧水頭症



過剰にたまった脳脊髄液

(脳神経外科 西野和彦)



**脳卒中リハビリガイド**  
田口芳雄著(秀潤社)

患者さんの日常生活の質向上に役立つリハビリテーションの知識と技術が分かりやすくまとめられています。



**詩集・生きてやろうじゃないの!**  
武澤順子著(青志社)

東日本大震災で被災。震災から1年にわたりありのままの心を綴った「母の日記」です。ぜひ手に取ってみてください。



**肺がん**

鈴木健司,他著(医薬ジャーナル社)

全国の専門医が最新情報を取り入れ、図表や写真を使いわかりやすく説明されています。



**生きていくあなたへ**  
日野原重明著(幻冬舎)

105歳の著者が残す言葉は、私達ひとりひとりの心に寄り添い続けるものです。おすすめの一冊です。



**大腸がんを生きるガイド**

杉原健一・石黒めぐみ著(日経メディカル)  
大腸がんの正しい知識を理解し、納得のいく治療を受けるために参考となる本です。



**君たちはどう生きるか**  
吉野源三郎著(マガジンハウス社)

いじめ・貧困・勇気・学問、今も昔もかわらないテーマに私達はどうか考え、どう生きるか。読んでみたいと思う本です。

**お勧めの一冊**

主人公の羽村真知子は、静かな住宅街のマンションの一室で、訪ねてくる人の心の悩みに寄り添うセラピスト。自分の持っている技術や力の全てを用いてクライアントをサポートする姿が描かれています。

心に傷をもっていたり、満たされない思いを抱いていたり、様々な悩みをもつクライアントがセラピールームを訪ねて来ますが、言葉や気持ちを否定することなくありのままを受け入れます。真知子から発せられる言葉は、威圧感がなく心地よさが感じられます。

最初、クライアントは反応が乏しかったり、否定的な態度を示したりしますが、何度か訪れるうちに固く閉ざされた心が少しずつ開かれていき、本来の自分を取り戻し、自分の生き方を見つけていきます。

ここには7つの物語が描かれています。どれも話の中に引き込まれ、真知子の肯定的な対応力にとっても癒され、押しつけのない穏やかな励まし、個々への承認、肩の力が抜けほっとできる一冊です。

(看護研修管理室 金田須美枝)



**[がん相談支援センターからのお知らせ]**

毎月1回、総合医療センター3階の患者図書室に於いて がん患者サロン『あづまっぺ』を開催しています。3月で7年目に入ります。これから寒さが厳しくなりますが、“ミニミニ講演”を聞きながら心と体をホットにしてみませんか? がんに罹られた方やご家族の方、お茶を飲みながら、一緒にお話ししましょう! 参加予約は不要です。どうぞ、お気軽にご参加ください。

**【ミニミニ講演の予定】**

- ◇1月23日(火) 14時～「ほっと一息つきながら、ストレッチで体の中からあったまろう!」  
運動療法指導士 早川 克氏
- ◇2月27日(火) 14時～「免疫力アップに向けて-こころ編 がんのつらさを緩和するために」  
精神科心理室室長 石橋和幸氏
- ◇3月27日(火) 14時～「未定」  
緩和ケア内科科長 渡邊陸弥氏  
がん相談支援センター 山口みどり